

福田ゼミ卒論・ゼミ論フォーマット

余白 上下左右 25mm
行数 40文字×35行（行数のみを指定）

本文フォント MS明朝 11pt
題名・見出しフォント MSゴシック 12pt 太字
脚注フォント MS明朝 10pt（ページ脚注）
ページ中央下にページ番号を付す

日華断交と中江要介大使

076A333 福田 円

1. はじめに一日華断交問題の浮上

1972年7月、田中角栄内閣は誕生して間もなく、中華人民共和国との国交樹立へと本格的に動き始めた。しかし、それは台湾の中華民国政府（以下国府）との外交関係を断たなければならないことを意味していた。日中国交正常化の裏側で、国府との「別れの外交」が日本にとって重要な外交案件として浮上したのである。

外務省でこの案件を担当したのが、中江アジア局参事官であった¹。中江大使は「別れの外交」の重要性を十分に理解し、使命感をもって台湾を訪問する決意をした。

2. 「別れの外交」の具体目標

大平外相による「別れの外交」は、①中国との国交樹立と矛盾しないような断交宣言を国府から引き出しつつ、②台湾の報復的措置を回避し、③できるだけ円満に台湾との実務関係を維持することを具体的な目標としていた²。そのために国府に対して誠意を尽くし、理解を得る必要があるとの観点から、田中首相は椎名悦三郎自民党副総裁に蒋介石総統宛て親書を託し、政府特使として台湾へ派遣したのであった。

teacher 10/6/10 14:10

コメント [1]: 全体のフォーマットについて

余白：上…25mm

下左右…25mm

字数と行数：40字×35行

下中央にページ番号を挿入

teacher 12/5/16 14:06

コメント [2]: タイトルは 14pt

MSゴシック、太字で

前後は一行ずつ空ける

teacher 10/6/9 14:28

コメント [3]: 見出しは 12pt

MSゴシック、太字で

前後は一行ずつ空ける

teacher 10/6/9 14:28

コメント [4]: それ以外の本文は、11pt、

MS明朝

teacher 12/5/16 14:06

コメント [5]: 脚注については、

ページごとに振る

脚注文字は 10pt、MS明朝

¹中江要介『日中外交の証言』（蒼天社出版、2008年）100頁。

²川島真ほか編『日台関係史 1945-2008』（東京大学出版会、2009年）50頁。